

アジサイの仲間の落葉低木。サハリンから日本列島、中国などに広く分布します。名の由来は、樹皮を水に浸して出る粘液が和紙を漉くときの糊料として使われたこと、茎の中が中空（空木、ウツギ）であることから。ノリウツギの花序（花軸上の花の付き方）は円錐型で一般的なアジサイとは異なる情緒があります。大きな白い花びらに見えるのは装飾花で、中に小さな花が多数集まって咲きます。本当の花はとても小さいのですが、よく見るととても可愛らしいです。装飾花は冬までドライフラワーになって残り、雪面に落ちていることもあります。また、標高の高い八幡平や裏岩手の山々の稜線にも矮小化して分布し、陽当たりの良い場所では、装飾花や果実がピンク色に染まることが多いです。「こんなところにこんな姿でノリウツギが！」と、その分布域の幅に驚かされます。秋には黄葉して赤味を帯びた葉柄とのコントラストが美しく目立ちます。冬芽も冠を被った小人のようで楽しめます。園内随所に植栽されており、一年を通じて折々の姿を楽しむことのできる木です。



大きな白い花びらに見えるのは装飾花、中の小さいのが本当の花（左上拡大）2022/7/18



新葉と花芽 2019/6/18



花 2022/7/18



大地獄谷のノリウツギ 2021/8/16



黄葉 2021/10/28



ドライフラワー 2022/1/31



冬芽 2020/3/19